

わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

地域包括ケアシステムを支える人々

81

皆さん、訪問入浴介護をご存知でしょうか？

訪問入浴介護とは自宅でお風呂に入るのが難しい要介護者の入浴をサポートする介護サービスです。諏訪市から諏訪市社会福祉事業所への委託事業として昭和63年1月より始まり平成12年からは介護保険のサービスへと移行しました。当事業所では現在までに1940名の方々の入浴に携わってきました。

入浴車でご自宅に訪問しベット又は布団の横に浴槽を置き、お湯を貯めてお部屋で入浴をします。お湯は、入浴車にポイラーが搭載されているので、そのポイラーで沸かし送る事もできます。諏訪市においてはご自宅に温泉があるお宅もありますので長年入り慣れた温泉を頂いて入浴する事もできます。



スタッフは、看護師と介護員2名の計3名でお伺いして入浴のお手伝いをしています。入浴前に看護師が体温、血圧、脈拍、酸素飽和度等を測定し変化があれば主治医に報告し指示を仰ぎます。入浴中は利用者の方の皮膚の変化にも注意をしています。現在は医療が進歩し終末期の方や中心静脈栄養や人工呼吸器を使用している方も在宅で療養されており、その方々の入浴もお手伝いしています。

湯の里事業統括 訪問入浴サービス 看護師兼管理者

うちだ きょうこ
内田 京子



入浴している様子

心地よい入浴を

ケアマネジャーをはじめ、医師、訪問看護師、福祉用具事業所等、多職種の方々との連絡を密にし、変化がある場合には一早く報告し対応してもらえ連携ができています。

介護者の方が「お母さんをお風呂に入れてもらって、自分が入るより嬉しい」と喜んで下さいました。「サッパリした」と表情穏やかになって頂ける事が私達スタッフの喜びにつながります。

辛い治療、痛い、痒いを我慢している利用者の方もいらっしゃると思います。お風呂に入っている時はスタッフとコミュニケーションをとり、笑い声が聞こえるひと時を作っていきたいと思えます。

地域包括ケアシステムを構成するサービスの一つとして医療関係者、介護関係者、ライフドアすわとも連携し住み慣れた自宅での在宅生活をお手伝いしてまいります。ご利用を希望される方はお問合せ下さい。

今回は11月10日掲載予定